

カタカナ表記について

～ウェブ / ウエブの表記を検討～

第1288回放送用語委員会を、平成18年10月6日（金）に放送センターで開いた。外来語のカタカナ表記についての審議である。

なお、今回から、新しく放送用語委員として、清水義範氏（作家）と井上由美子氏（脚本家）が加わった。

1. 承認事項

WEBのカタカナ表記について

○ ウェブ × ウエブ

ただし、発音は必ずしも表記と一致しなくても良い。アクセントは、別途検討する。なお、外来語は、そのまま使うのではなく、できるだけ言い添えや言いかえをする。「ウェブ」についても、言いかえがしにくい場合にのみ使うよう心がける。

2. 提案理由

近く改訂される『新聞用語集』（新聞協会）では、「ウェブ」が採用されることになった。NHKでは、個々の外国語・外来語や外国の地名・人名の表記については、できる範囲で新聞などほかのマスメディアで使用されている表記との統一をはかることにしている。WEBはこれまでのNHKの原則では「ウエブ」であった。『新聞用語集』との不統一を避けるため審議・検討することにした。

3. 調査結果（第1286回放送用語委員会以降実施）

・アナウンサー調査

実施期間：9月13日～9月27日
実施方法：質問票をメールで各局アナウンスに送付。
メールまたはファクシミリで回答を得た。
対象者：全国NHKアナウンサー544人
有効回答数（率）：305（56%）

・辞書調査

『新明解国語辞典』（初版～6版・三省堂）、『三省堂国語辞典』（初版～5版・三省堂）、『日本国語大辞典』（初版、2版・小学館）、『大辞林』（初

版、2版・三省堂）、『広辞苑』（初版～5版・岩波書店）、『研究社和英大辞典』（4版、5版・研究社）、『コンサイスカタカナ語辞典』（初版～3版・三省堂）に「ウェブ / ウエブ」が掲載されているかを調査した。「ウエブ」の掲載はなく、「ウェブ」をとっているのが4冊。「ウェブサイト」で掲載しているのは2冊、「ウェブサイト」が1冊あった。

（その他、事前に3つの調査を行った。くわしくは、『放送研究と調査』2006年9月号を参照。）

4. 審議内容

水谷修委員：表記を「ウェブ」とすることに賛成である。NHKの文字表記は、新聞などほかのマスメディアの後を追う形が良いと考える。

「ウェブ」については、音声認識調査を行っているが、個人個人が持つ音認識の枠組みの中で、その音を聞いている。「ウェブ」と発音していても、それを聞く人の認識できる音に「ウェ」がなければ「ウエブ」と聞いてしまう。つまり、実際の発音どおりに聞いているかどうかはわからない。「WEB」を「ウェブ」と2音節として捉えているのか。または「ウェブ」と書いていても、「ウエブ」と3音節、もしくは3音節に近く捉えているのか明確ではない。

「エイ / エー」の問題も同じだが、発音には幅があるはずだ。その幅の範囲内での発音は認めるが、それにはずれるようなものは認めないというようにしてはどうだろうか。「WEB」について言えば「ウェ」を1拍ではなく1.5拍程度で読んでいる人もいるだろう。

例えば、「ウイ」について言えば、古くは「ヰ」という音が日本にはあった。これが復活してきているのか。または日本語の発音が変わろうとしているのか。将来の動きも見据えて、今後のモデルとなるような指針を作っておいてはどうか。

井上史雄委員：3つの調査結果の中では、アナウンサー調査とオムニバス調査で「ウェブ」が多く

なっている。しかし、中でもとくに発音の実態を表していると考えられる音声認識調査の結果では「ウェブ」の方が少し多い。年代差を見ると若い年代ほど「ウェ」が多くなっている。将来の動きを知るうえで、若い年代がどういう傾向を持っているのかを知るのは重要で、今後の指針になる。若い年代の傾向とアナウンサーの読みやすさを考えて今回の事務局案に賛成である。「ウェ」は日本語には存在しない音であると言われている。しかし、「弱い」ことを言う「ようえー」で使われるなど、すでに存在する音であると考えていい。

天野祐吉委員：調査の結果から見ても、これだけ「ウェブ」が慣用になっているのであれば、あえて「ウェブ」をとる理由はないだろう。提案どおりに賛成する。アクセントはどうなるのか？

NHKのカタカナ語の表記は新聞などほかのメディアの後を追うぐらいでいいだろう。ただ、カタカナ語は使うのに慎重になるべきだと思う。『新聞用語集』（新聞協会）とNHKの表記に違いが出ているカタカナ語のほとんどが普段は使わないようなことばのようだ。カタカナ語の表記をどうこうするよりも、カタカナ語はできるだけ言いかえや言い添えをするよう呼びかけることが必要だろう。

清水義範委員：カタカナ語表記は流動的である。促音がなくなったり、長音がなくなったり、どんどん変化し、前のものは古く感じられてしまう。こうしたカタカナ表記については、できるだけ世の中の先頭にいるのではなく、真ん中あたりにいる方がいいだろう。新聞協会のカタカナ語表記は世の中の先頭を行っている表記のようだ。その点でいえば、NHKはそれを追う形が適切だと思う。

井上由美子委員：「ウェブ」はインターネットを使う人たちが使うことばである。ネットを使う人が増えているとはいえ、若い年代中心だろう。調査の結果から、ネットをよく使う（＝ウェブということばをよく使う）若い年代で「ウェブ」という回答が多くなっている。その点で、今回の提案で問題ないと思う。

ウェブは、単独で使われることはほとんどないだろう。ウェブサイト、ウェブマガジンなど複合語で使われることが多く、その場合も「ウェブ」の方が表記としてわかりやすいと思う。表記だけ

ではなく、アクセントも重要だ。アクセントを知る調査も必要なのではないか。

野村雅昭委員（今回欠席のため意見のみ）：今回の提案には賛成しかねる。カタカナ表記の場合は、発音と表記をできるだけ一致させた方が良く考える。また、実際の発音では「ウェブ」と2拍で発音している人は少ないように思う。原音に関する知識に基づいて「ウェブ」と書いているだけであり、これを認めるのは実際の発音とのずれを助長することになると考える。

事務局：今回欠席の杉戸清樹委員からは、「WEB」は2拍であると捉えている人が多いと考えられ、今回の提案に賛成であるとの意見が口頭で寄せられた。委員からも指摘があったように、このことばを知らない人も多い。カタカナ語を使うことで、意味があいまいになる場合や意味が伝わらない場合も出てくるため、できるだけ言い添えや言いかえをするというNHKの原則がある。この原則にのっとり「ウェブ」についても、言いかえがしにくい場合にのみ使うようにする必要があるだろう。

また、NHKではカタカナ語の表記と発音をできるだけ一致させている。一部「アルミニウム」は「アルミニウム」と発音し、「チーム」は、「ティーム」と読んでも良いことにしている。しかし、これらは特例である。「ウェブ」については、委員の指摘のとおり、必ずしも「ウェ」と「ウエ」の発音が区別できているわけではないことも想像できる。

今回は、「WEB」のカタカナ表記を「ウェブ」とした。発音と表記を一致させるかどうかは今後、カタカナ語の表音一致がどのような方向にいくのか、推移を見守って決めることとしたい。

アクセントは、頭高型以外に平板型を認めるのかどうかだが、「メール」「ネット」なども同様の問題があり、別途検討する課題としたい。

山下 洋子（やました ようこ）

第1288回 放送用語委員会(東京)

【開催日】平成18年10月6日(金)

【出席者】水谷 修氏、井上史雄氏、天野祐吉氏、清水義範氏、井上由美子氏、榎原 一 NHK放送文化研究所長 ほか